



発行日
平成28年3月1日 第108号
林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林ふれあい推進センター

雷別らいべつドングリ倶楽部開催

2月3日(水)、「雷別ドングリ倶楽部」が、今年度最後となる第5回目の活動を行いました。今回の活動は、樹木の観察。

「寒いね〜」としばれるねえ〜が挨拶がわりの厳寒期にですか？

秋に落葉して葉っぱもなく、枯れ木のように見えるこの時期にですか？

はいそうです。冬だからやるのです。

なぜなら、観察するのは樹木の冬芽(とうがふゆめ)とも樹木



枝先のふくらみが「冬芽」ミズナラの枝に、いっぱい!

れ、冬芽は、夏から秋にかけて作られ、越冬する芽のこと。春には

伸びて葉や花になります。どれも同じものに見える冬芽ですが、観察すると個性豊かで、樹木の種類を見分けるのに役立ちます。



枝を手に取り「冬芽」を解説中の職員。皆さん熱心にメモを取っています。

観察場所は、当センター周辺。太平洋からの冷たい浜風がまとすも吹き付け、夏でも寒いらす場所です。冬は寒くてあたりまえの場所です。暖房の効いた屋内で事前の予習を行いました。資料の用意をしました。樹種ごとの

特徴や見分けるポイントをクイズ形式で、センター職員が解説しました。知識をつけたところで、屋外に移動して、冬芽の観察会を実施しました。

庁舎周辺のミズナラ、シナノキ、ダケカンバ、ヤチダモ等を一本一本観察。冬芽の特徴を確認しました。

樹種によっては、冬芽が高い位置にあり、熱心に観察した人も首が痛くなったり人もいるかもしれないですね。

雷別ドングリ倶楽部の皆さん、寒さのなかでの活動お疲れ様でした。



斬新なデザインの建物ですが、見ているのは手前にある木(オニグルミ)の枝先です。

